



平成27年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

受賞者のご紹介(順不同・敬称略)

3R活動優良企業

花本建設株式会社

北海道

平成8年に自然木の伐採木・伐根樹等をチップ化するプラントを設置し、チップ化した伐採木・伐根樹等を、家畜の敷材やミミズを活用した有機肥料にすることにより、産業廃棄物の排出ゼロに取組んでいる。

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

北海道

平成12年より、自社工場内より排出される廃棄物について、受入・調合・充填・パッケージ等すべての工程及び事務所でリサイクルを進める「ゼロ・エミッション活動」に取組み、平成13年よりリサイクル100%を達成している。

mizuiro株式会社

青森県

平成24年に野菜や果物等の残さを資源化し、それを原材料とした「おやさいクレヨン」の商品化に成功した。現在では、クレヨンだけでなく、自然素材でできた様々な商品を考案しており、残さの削減・リサイクルに努めている。

ニッコー・ファインメック株式会社

岩手県

昭和55年の設立以来、金属回収や多品目の取扱ができる産業廃棄物処理業者として活動を続け、現在では、岩手県で初となる小型家電リサイクル法に基づく大臣認定を受けるなど、他事業者の規範となる活動を展開している。

産業振興株式会社 釜石事業所

岩手県

平成23年から、東日本大震災で発生したがいき中の金属くずを独自に考案した最適加工選別処理法により、処理量5.88万tの内99.1%を再資源化し、最終処分量の削減に取組んでいる。

富士宮清掃有限会社

静岡県

昭和46年から市の家庭ごみや資源ごみの収集を行うとともに、古紙回収事業を通じて学校への環境教育・資源循環教育に役立っている。

株式会社藤枝農産加工所

静岡県

平成22年からフルーツ缶詰等の製造工程で発生する高濃度シロップをバイオガス化し、燃料として有効利用することで、廃棄物の発生抑制や化石燃料使用量減少による温室効果ガス排出量を削減している。

三光株式会社

鳥取県

昭和56年より、多品目の廃棄物の適正処理及びリサイクルを実施し、生ごみや下水道汚泥の堆肥化、廃棄物処理の際に発生するエネルギーを利用した発電を行う等、サーマルリサイクルに積極的に取組んでいる。

バイオディーゼル岡山株式会社

岡山県

平成20年より、岡山市と協働により、一般家庭、飲食店、食品製造工場等より排出される廃食用油から高品質なBDFを製造している。また、小学生等へ工場見学の機会を提供する等、環境教育を積極的に行っている。

日清紡ホールディングス株式会社 徳島事業所

徳島県

当該事業所から排出される廃棄物の大半を占める動植物残さ(いちご葉)を自然乾燥させ、バイオマス燃料としてリサイクルを開始した。その結果、事業所内の廃棄物を99%以上リサイクルすることに成功している。

柴田産業株式会社

福岡県

平成20年から小型家電の回収事業を開始するとともに、平成24年には産業用電子機器に含まれる tantalum のリサイクルについて、世界で初めて事業化に成功した。

医療法人 真鶴会 小倉第一病院

福岡県

病院食の食品残さから堆肥をつくる活動を平成8年から開始。農業を営む患者に、作った堆肥を配布し、それを用いて栽培した野菜を使って食事を提供するといった循環型社会を院内内で形成している。

株式会社イワフチ

佐賀県

容器包装リサイクル法の施行以前よりペットボトルのリサイクルに取組んでいる。また、平成11年から福祉施設と連携して、施設利用者の積極的な雇用を推進するとともに、学校・団体等への工場見学受け入れや環境出前講座を行っている。

株式会社日本リモナイト

熊本県

平成13年に、下水処理施設等で発生する硫化水素の吸着剤の再生技術を確認した。本技術により、これまで埋め立て処分していた吸着剤を再生利用できるようになり、再生原料の確保とともに、資源の枯渇防止に貢献できるようになった。

3R活動推進功労(団体)

生活協同組合CO・OPとやま生ごみリサイクル研究会

富山県

平成5年から生ごみの減量化・リサイクルに関する研究を行い、堆肥化促進剤「ほかし肥」を開発した。その他、環境教育・普及啓発に取組んでいる。

熱海女性連絡会

静岡県

平成15年、熱海女性連絡会を中心にマイバック運動を展開し、その後、市と協働で可燃ごみ減少のための雑がみ回収事業を推進している。

特定非営利活動法人 KES環境機構

京都府

平成19年より、企業内で3Rを推進していくために立てるべき計画、環境マネジメントに係る相談に対し助言等を行い、廃棄物の排出をゼロにする循環型産業システムの構築に尽力している。

地球温暖化を考える北九州市民の会

福岡県

平成9年から活動開始し、「楽しみながらできることを始めよう」を合言葉に、家庭のエネルギー利用、ごみの減量化等、我が家でできるCO₂削減運動に取組んでいる。

大崎町衛生自治会

鹿児島県

平成10年より缶・びん・ペットボトルの分別収集に際し、ごみステーションでの立会活動などを通じて分別収集の向上を図るとともに、本活動による徹底した分別の取組の結果、処分場の大幅な延命化が図られた。また、環境情報誌の発行を行うことにより、普及啓発活動にも取組んでいる。

3R活動推進功労(個人)

小川 勲

広島県

平成13年度より現広島県資源循環協会理事に就任し、平成23年度には協会会長として、適正処理、不法投棄防止、3Rの推進に向けた同協会活動の主導的役割を果たしてきた。さらにNPO法人広島循環型社会推進機構副理事長等として各種リサイクル技術の開発等に貢献している。

森末 富子

宮崎県

平成17年より、ごみを出さない暮らしを目指し、エコクッキングの実践、庭の雑草や枯れ木、果物の皮を使った堆肥づくりを進め、一般家庭の一日平均排出量の10分の1という減量に成功している。その活動が環境啓発紙等で取り上げられるとともに、県の環境保全アドバイザー等として環境学習の推進にも貢献している。